

# くすのきマルシェPROJECT



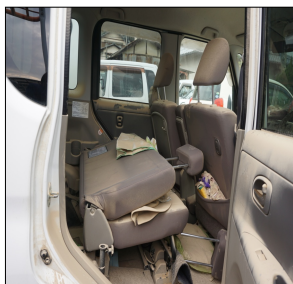
12月26日、”くすのきマルシェ”の一環で倉敷市内の高校生が真備町を訪問しました。

”くすのきマルシェ”とは、西日本豪雨災害の復興支援を目的とした商品販売活動のことで、過去2回天満屋倉敷店において実施されました。この販売活動による収益の一部は、義援金として倉敷市に寄贈されています。

真備町を訪問したのは倉敷市内の高校7校、計29人の高校生です。この活動では、真備町の復興状況を見るだけでなく、実際に被災された方々にお話を伺わせていただきました。参加した高校生たちは、熱心に話を聞いたり、メモを取ったりしていました。

学校に着き、参加生徒はグループワークを行い、「高校生だからこそできる復興支援は何だろう」ということについて話し合いました。

次回の”くすのきマルシェ”は2月9日、天満屋倉敷店にて実施されます。お時間がある方は足を運んでみてください。



## 感想を聞いてみた!

私は今回、真備町を訪問し、真備の現状を目で見て、肌で感じることができました。この経験を次回の”くすのきマルシェ”で活かし、少しでも真備町の復興の手助けをしたいと思います。

2年 女子

実際に真備に行ったから分かったことがたくさんあったので、実際に行って学んだ私達にしか分からないことを、たくさんの人に伝えて、知ってもらふ必要があると思った。

1年 女子



私は被災時、近くの中学校に避難しました。私の母は真備町に勤めていて、現在も被災前に比べて仕事が少ない状況が続いています。同じ状況に置かれている人々はたくさんいるので助け合わなければと思いました。

3年 男子

被災した方の家を見せていただいて、家の中の変わりようにとても驚きました。車は水に浸かるとダメになると聞いたことがありましたが、家も同じことが言えると思いました。

1年 女子